特別講演会＆ワークショップ

学習者の役に立つ日本語会話テストの開発：理論、先行研究、そして実践

近藤・ブラウン妃美

ハワイ大学マノア校教授

日時： 3 月 20 日（木）13:00-17:00

会場： 東京外国語大学（府中キャンパス）留学生日本語教育センター「さくらホール」

http://www.tufs.ac.jp/access/

参加費： 無料（但し事前申し込みをお願いします）

http://jopt.jpn.org/p5.html

プログラム：

13:00-13:15　開催主旨説明　鎌田修（南山大学教授）

13:15-14:45　講演（司会：伊東祐郎（東京外国語大学教授））

14:45-15:00　休憩

15:00-17:00　ワークショップ

要旨：

インタビュー及びロールプレイ形式の「会話テスト」は一種のパフォーマンス・テストであり、到達度テスト(achievement test)、もしくは熟達度テスト（proficiency test）として、教育現場で幅広く利用されている。前者は、ある特定のクラスやプログラムの学習目標がどこまで達成できたかを判定することを主な目的とし、後者は言語能力判定を目的とする大規模テストだ。ACTFL が開発した OPI のような能力テストは典型的な熟達度テストで、ある特定のカリキュラムに準じておらず、その汎用性は高い。いずれのタイプの会話テストを作成・開発するにしても、テスト結果の妥当性、信頼性、そして有用性を高めるには、様々な考慮が必要である。また、学習者の学びを支援するという観点からは、学習者のモチベーションを高め、また学習者への効果的なフィードバックを与えられるテスト作りというものを考えることも大切だ。研修会では、以上の点について考慮しながら、「学習者の役に立つ日本語会話テスト」開発というものを考える。

講演では、口頭パフォーマンス・テストに関する理論や先行研究を中心に、そしてワークショップでは、日本語会話テストのデザイン、手順、そして採点方法について具体例を示しながら、話を進める。

講師紹介：

ハワイ大学マノア校東アジア言語文学科教授。同校の言語・言語学・文学部副学部長兼任。教育学博士。1988 年より同校の日本語及び日本語言語学プログラム(BA/MA/PhD)で教鞭をとる。専門は日本語教授法、評価、及び継承語教育。最近の著書・編著に『日本語教師のための評価入門』(2012)、Practical assessment tools for college Japanese (2013)、New perspectives on Japanese language learning, linguistics, and culture (2013)等がある。Language Learning、Modern Language Journal、Language Testing、Foreign Language Annals 等の応用言語学研究誌にも日本語教育関係の研究論文を数多く発表。ホームページ：http://www2.hawaii.edu/~kondo/

＊本シンポジウムは「科学研究費助成事業：基盤研究（A）（2013 – 2016 年度）日本語会話能力テストの研究と開発：国内外の教育環境及び多文化地域社会を対象に」の支援を受けたものである。